MEDICINOVA VOICE

株主通信 Vol.16

中間決算のご報告

（2014年1月1日～2014年6月30日）

Patients voice, Our choice.

笑顔のために…

みんなの笑顔をつくることができると、私共は信じています。

01 TOP MESSAGE
MN-001とMN-166に多くの進展

02 SPECIAL EDITION
特集「難病への挑戦」～ALS（筋萎縮性側索硬化症）とIPF（特発性肺線維症）に挑む

06 TOPICs
オピオイド依存症適応の治験結果が良好
追加助成金$266万、さらに$1,100万供与の可能性も

07 HIGHLIGHTS
主なハイライト／IR説明会ハイライト

08 MANAGEMENT TEAM
経営陣

09 FINANCIAL HIGHLIGHTS
財務ハイライト

10 CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS
財務諸表／株主メモ

11 HOMEPAGE GUIDE／STOCK INFORMATION
ホームページの歩き方／株式の状況

MEDICINOVA
メディシノバ

TOP MESSAGE

代表取締役社長兼CEO（最高経営責任者）
岩城 裕一

**病に苦しむ世界中の患者さんのために、
新薬を創り、届けること。
それがメディシノバの使命です。**

日本のすぐれた創薬技術をいかして、
安全で有効な新薬を世界へ届ける…
患者さんの笑顔をつくることが、私達の仕事です

会社理念

充分な治療法がまだ確立していない疾病を患う
世界中の患者さんに、よりよい治療を提供することにより
社会に貢献すること

基本経営方針

理念を具現すべく、こうした疾病の問題を改善する
医薬品の導入、開発、販売を手がける
グローバルな製薬会社を目指すこと

MN-001で2つの線維症疾患（肺線維症、進行型NASH）の試験結果を報告させていただきました。MN-166のALS（筋萎縮性側索硬化症）適応のフェーズ2a臨床治験を開始しました。

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

本年4月に作成し、5月に皆様にお送りした株主通信vol.15以降のトピックは、MN-001とMN-166に多くの進展があったことです。

MN-001に関しては、6月にPF（肺線維症）の前臨床試験結果を、8月には進行型NASH（非アルコール性脂肪性肝炎）の前臨床試験結果およびNAFLD（非アルコール性脂肪性肝疾患）治療を適応とする米国特許の承認を報告させていただきました。次のステップとして、PF、NASHそれぞれの適応でのフェーズ2臨床治験を開始すべく、準備を進めております。

MN-166に関しては、8月にアイス・バケツ・チャレンジで一躍脚光を浴びた難病ALS（筋萎縮性側索硬化症）を適応とするフェーズ2a臨床治験の開始と、オピオイド依存症治療を適応とするフェーズ2a臨床治験の中間解析結果を報告させていただき、この結果を受けて9月にはNIH（米国国立衛生研究所）よりオピオイド依存症適応の治験に追加の助成金供与が決定した旨の報告をさせていただきました。また、進行型MS（多発性硬化症）を適応とするフェーズ2b臨床治験においては、9月現在150名の患者登録が完了し、2015年第1四半期中には予定登録患者数250名全ての登録が完了する見込みとなりました。

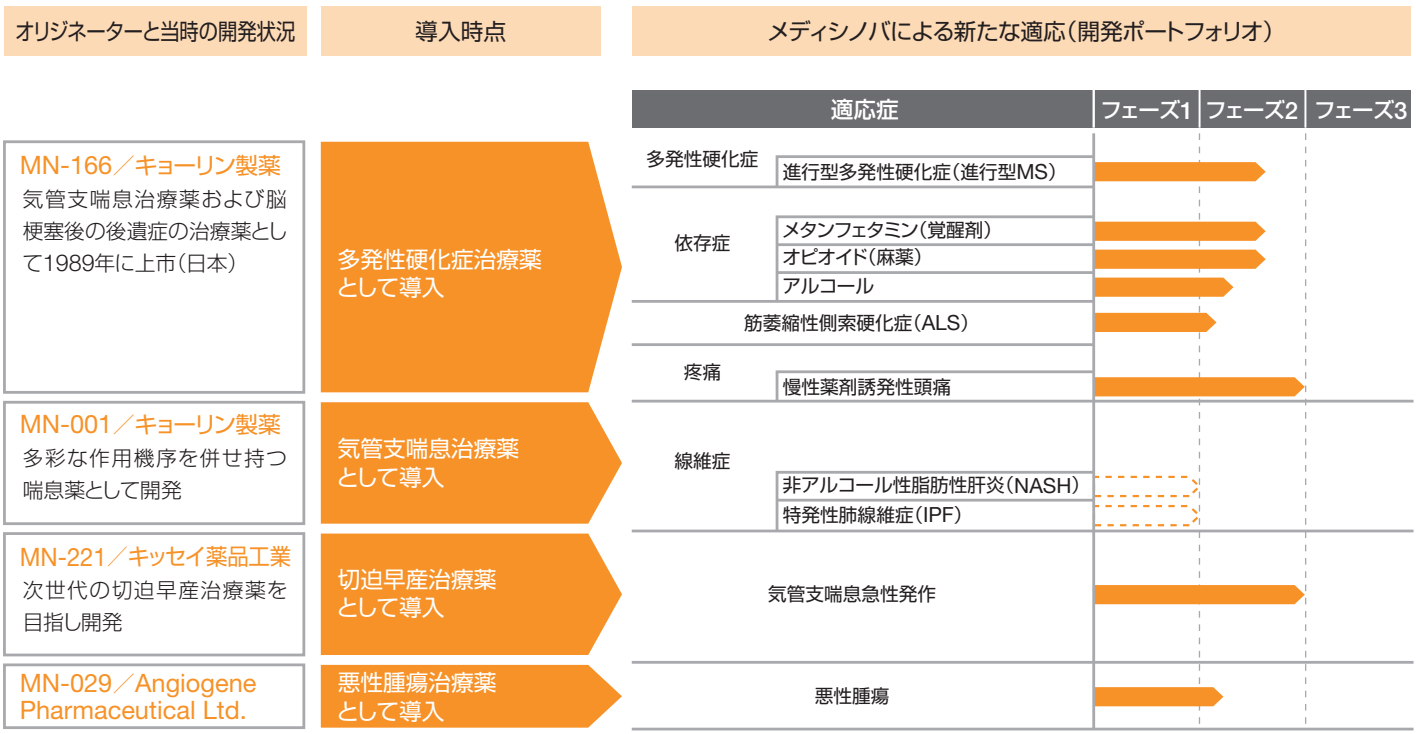
今後も、株主の皆様のご期待に応えられるよう社員一同、臨床開発、導出活動に邁進する所存でございます。株主の皆様には、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年10月

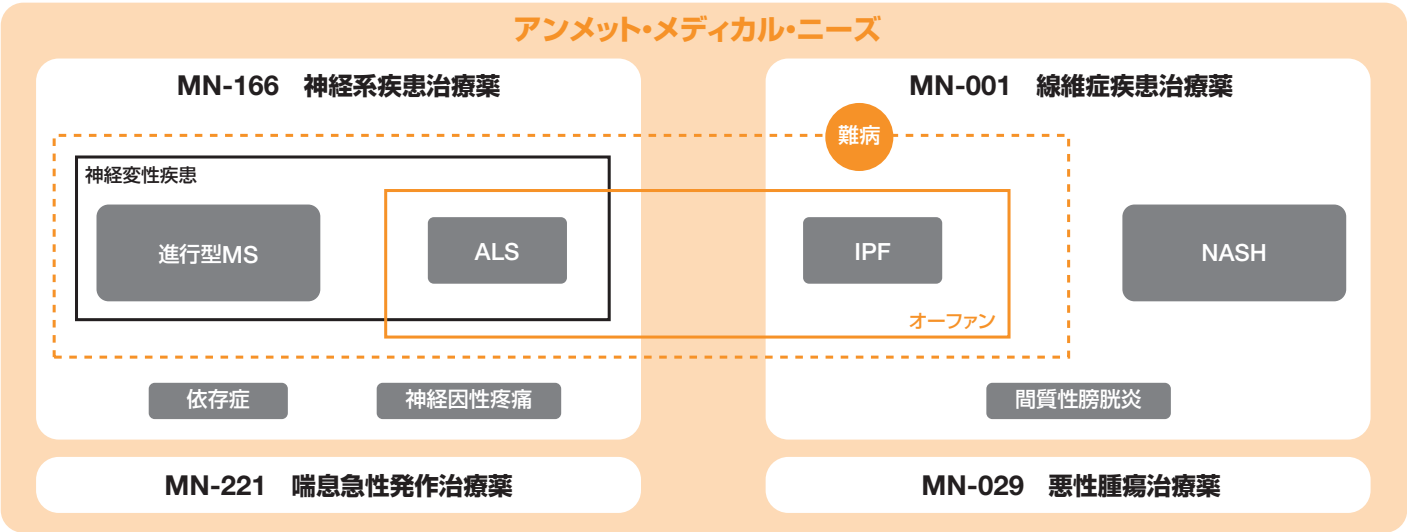
特集「難病への挑戦」

世界には、いわゆる難病に罹病し、不安を抱えながら苦しんでいる患者さんが多くいます。メディシノバでは、これまで重ねてきた臨床治験の成果を、こうした難病へ活かす試みを始めました。
私たちは、オリジネーターから導入した化合物の新たな適応の可能性を探るべく開発を進め、すでにさまざまな疾病の前臨床／臨床段階に入り、評価を得ています。中でも難病領域へ踏み出す化合物として、MN-166とMN-001に注力しています。前者はALS（筋萎縮性側索硬化症）に、後者はIPF（特発性肺線維症）に適応拡大する可能性を見出し、臨床治験を開始あるいは準備しております。今回は、強みを生かしながら難病克服への道を切り拓く、私たちの取り組みを特集します。

■メディシノバの強み「薬の導入時点とは異なる新たな可能性を追求」



■メディシノバの新薬開発領域



世界が注目する「ALS」に挑みます

手足・のど・舌の筋肉や呼吸に必要な筋肉がだんだんやせて力がなくなっていく難病ALS（筋萎縮性側索硬化症）。ALSアイス・バケツ・チャレンジで世界的に知られるようになったこの難病は、治療法が確立されておらず、効果的な新薬の開発が期待されています。メディシノバでは、主力化合物MN-166のALS治療薬への適用を目指すべく、臨床開発をスタートしました。

1 ALSとは

罹患した著名な大リーグ野球選手の名をとって「ルー・ゲーリック病」とも呼ばれるこの病気は、脳および脊椎の神経細胞にダメージを及ぼす進行性の神経変性疾患です。ダメージにより特定の筋肉への指令が届かなくなり、筋肉が萎縮し弱まっていきます。その結果、随意運動が不自由となり、病状末期には全身の運動麻痺に至り人工呼吸器などの補助が必要となります。診断されてからの生存期間は通常2～5年と言われています。

米国ALS協会によると、現在米国にはおよそ3万人のALS患者がおり、さらに毎年約5,600人が新たに診断されているとのことです。現在承認されている治療薬はリルゾールのみで、その効果は限定的です。

2 MN-166のALSを適応とするフェーズ2a臨床治験を開始しました

ALSの病態進行や臨床症状には、中枢神経のグリア細胞の活性化が密接に関連することが知られています。MN-166には脳内の活性グリア細胞を抑制する作用があることから、私たちはALSとの関連性に着目。これまで中枢神経疾患をターゲットにMN-166の開発を進めてきましたが、ALS治療にも効果が期待できると考え、フェーズ2a臨床治験を開始しました。

フェーズ2a臨床治験のキックオフミーティングの様子
（カロライナ・ヘルスケアシステムの神経科学研究所、神経筋/ALS・MDAセンターの皆さん）

■MN-166と活性グリアの関係性

■フェーズ2a 臨床治験の概要

主任治験責任医師	ベンジャミン・リックス・ブルックス博士（カロライナ・ヘルスケアシステムの神経科学研究所、神経筋／ALS・MDAセンター所長）
目的	リルゾールを服用しているALS患者におけるMN-166（60mg/日）の安全性・認容性をプラセボ群と比較して評価すること、MN-166の臨床的効果を評価すること
期間	6カ月間のプラセボ対照、無作為二重盲検試験に続き、オープンレベル（非盲検）の6カ月の合計12カ月
被験者条件	治験参加時点で孤発性または家族性ALSの診断から3年以内であること、少なくとも1カ月間以上リルゾールを定量服薬（100mg/日）していること
患者登録	18歳から80歳までの男女約60名（MN-166群 40名：プラセボ群 20名）を予定

3 オーファンドラッグとは

難病も含め、患者数の少ない疾患を希少疾病と言い、米国では患者数が20万人以下の疾病を指します。この希少疾病に対する医薬品をオーファンドラッグ（希少疾患治療薬）と呼びます。

1983年に米国でオーファンドラッグ法が制定されて以来、各国は、希少疾病を適応とする新薬の開発促進のため、優遇措置を設けるなどの対策をとってきました。日本にも、厚生労働省が承認する同様の制度があります。

米国では、一定の条件を充たす希少疾病の治療を目的とする新薬に対し、FDAがオーファンドラッグ指定を行います。指定を受けると、排他的先発販売権の付与、政府の補助金、臨床研究費用の税額控除といった優遇措置が受けられます。

参考資料

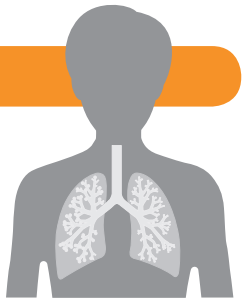
「一般社団法人 日本ALS協会」 **http://www.alsjapan.org/**

「難病情報センター」 **http://www.nanbyou.or.jp**

ALS治療薬の開発成功を祈念して アイス・バケツ・チャレンジ!

世界中に広まる「ALSアイス・バケツ・チャレンジ」。ALS患者と患者団体を支援する募金イベントで、寄付金はALS患者や家族の療養と治療研究のために使われます。その趣旨に賛同するとともに、ALS治療薬の開発が成功し一刻も早く患者さんの治療に貢献できることを祈念し、私たちも参加いたしました。

原因不明の肺疾患「IPF」に挑みます



肺がふくらみ呼吸が維持できなくなるIPF（特発性肺線維症）も現在、確立された治療法のない難病です。メディシノバでは、主力化合物MN-001のNASH適応の前臨床試験で肝臓線維化に対する効果が認められたことから、肺に対しても適用できる可能性があると考え、肺線維症の前臨床試験に着手。良好な結果をおさめ、IPF治療への第一歩をスタートさせています。

1 間質性肺炎とIPF

IPFは、特発性間質性肺炎の病型の中で最も頻度が高い肺疾患です。間質性肺炎は肺胞の壁の正常構造が壊れて線維化が起こる病気で、肺胞の壁が固く、厚くなることで酸素が取り込みづらくなり、換気障害をきたします。中でも原因不明のものを特発性間質性肺炎と言います。

肺の線維化は抗がん剤の副作用、アスベストへの暴露などさまざまな原因で起こり得ますが、原因不明のIPFは非常に予後不良な難病で、平均寿命は診断から3～5年とされています。米国での罹患者は12万8千人と言われ、さらに毎年4万8千人が新たに診断されています。現在、FDAで認可されているIPFの治療薬はありません。

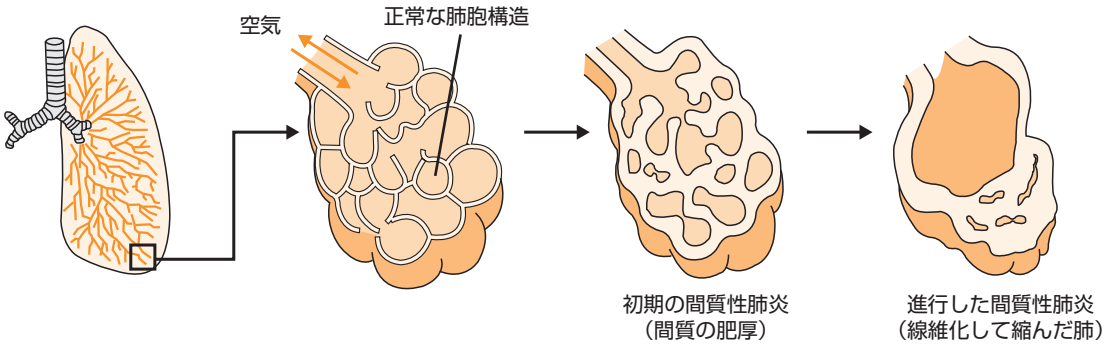
スイス製薬大手のロシュが2014年8月24日、IPF治療

薬の開発に取り組む米国のバイオ医薬品開発会社インターミューンの買収を発表しました。希少疾患に強みを持つ同社の大手による買収劇は、難病治療薬への注目の高さを窺わせます。

参考資料

「一般社団法人日本呼吸器学会」 http://www.jrs.or.jp/modules/citizen/index.php?content_id=20

■間質性肺炎の進行による肺の異常



2 肺線維症適応の前臨床試験が結果良好、学会で発表しました

メディシノバは2014年1月、MN-001のNASH（非アルコール性脂肪性肝炎）を適応とする前臨床試験において肝臓の線維化に対して効果が認められたことを発表しました。この特性をIPFにも適用できると考え、このたび、肺線維症を適応とする動物モデルによる前臨床試験を実施しました。

試験の結果、MN-001が肝臓の線維化のみならず、肺の線維化に対しても効果を示したことから、MN-001は線維症全般の治療に貢献できる可能性があると考えております。その重要性が評価され、2014年9月下旬にカナダで開かれた第18回国際呼吸器線維症学会でプレゼンテーションを行いました。

■肺線維症適応の前臨床試験の概要

試験内容

- ブレオマイシンによって誘発された肺線維症モデルマウスに3種類の異なる薬用量のMN-001を2週間投与し、その効果を評価
- 肺線維症に対する効果については、線維化を肺組織染色検査によって判定するAshcroftスコア、CTスキャンによる肺密度評価、さらに線維化・コラーゲン蓄積の指標となるハイドロオキシプロリン量の測定により評価

試験結果

- 肺繊維化の病理評価であるAshcroftスコアは非治療群において著しい上昇を認めたものの、治療群では有意に抑制（$p<0.05$）されていた
- CTスキャンによる密度解析からも治療群で密度が軽減していることが認められた
- 肺組織でのハイドロオキシプロリンの量を非治療群と治療群で比較したところ、ハイドロオキシプロリンは治療群において有意に低下（$p<0.01$）していることが認められた

繊維化を伴った進行型NASHの前臨床試験でも良好な結果を得ました

肝硬変や肝がんへと進む、NASH適応の治療薬の開発を進めているメディシノバでは、MN-001のマウスの進行型NASH（線維化を伴った非アルコール性脂肪性肝炎）モデルを対象とした前臨床試験においても、良好な結果を認めました。

この試験結果から、MN-001はNASHに対して炎症抑制、脂肪化抑制効果があるだけではなく、線維化を改善する効果を示していると考えられます。

オピオイド依存症

適応のフェーズ2a臨床治験で良好な中間解析結果を得ました

メディシノバはこのたび、オピオイド依存症患者を対象とするMN-166のフェーズ2a臨床治験で良好な中間解析結果を得ました。

本臨床治験は、依存頻度の高い処方麻薬であるオキシコドンの報酬効果、鎮痛効果、自覚症状、パフォーマンスおよび生理学的効果に対してMN-166が与える影響を検証することを主目的に、コロンビア大学とニューヨーク州精神医学研究所（NYSPI）の共同で、コロンビア大学臨床神経生物学教授のサンドラ・コマー博士の主導により実施されています。この中間解析は、7名の被験者が入院病棟での6週間の治験を完了した後に行われました。

同博士らは右の解析結果の中でも特に「渇望度の抑制効果」を重要と考えています。オピオイド依存患者の回復期において、MN-166の長期投与に麻薬使用の再発防止効果が認められる可能性があるためです。

中間解析の主な結果

●渇望度の評価：
ヘロイン、コカイン、タバコなどの薬物や嗜好品への渇望欲求が顕著に軽減

●主観的な自覚症状の評価：
オキシコドン使用により「高揚感を感じる」「この量の麻薬がちょうど良いと感じる」などの質問に対する回答を数値化した結果、オキシコドンの自覚症状の軽減および、オキシコドンの鎮痛効果をより高める効果を確認

●氷水に手を浸し、心拍数や血圧のほか、痛みの閾値や忍耐度を評価：
「痛みの程度を患者自身が主観的に数値で評価する試験」で合計スコアの低下、疼痛スケールおよび苦痛スケールの平均スコアの低下を確認

●オキシコドンの報酬効果：
「オキシコドンを繰り返し接種したい」という欲求を抑制

TOPICs

$266万（9ヵ月間の活動費）

の助成金追加が決定。米国国立衛生研究所より供与されました

$1,100万（4年間の活動費）

がさらに供与される可能性があります

今回のMN-166のオピオイド依存症を適応とするフェーズ2a臨床治験の良好な中間解析結果に基づき、米国国立衛生研究所（NIH）の一部門である米国国立薬物濫用研究所（NIDA）から、同治験の完了まで9カ月間の活動をサポートする追加の助成金として266万米ドルが供与されました。

なお、上記コマー医師らコロンビア大学およびNYSPIのグループは、NIDAから、その後4年間にわたりさらに総額1,100万米ドルを超える供与が可能である旨の通知を受領しています。

HIGHLIGHTS
ハイライト

主なハイライト	2014年	IR説明会ハイライト
• ジェンザイム社から遺伝子治療プログラムに関するマイルストーン600万米ドルの受領 • MN-001のNASH（非アルコール性脂肪性肝炎）を適応とする試験結果を発表 	1月	• モーニングスター主催個人投資家向けIR説明会（札幌）
	2月	• SMBC日興証券大分支店個人投資家向け説明会（大分） • SMBC日興証券熊本支店個人投資家向け説明会（熊本） • SMBC日興証券奈良支店個人投資家向け説明会（奈良） • モーニングスター主催個人投資家向けIR説明会（金沢） • モーニングスター主催個人投資家向けIR説明会（東京）
• MN-166のマリファナ依存症治療を適応とする臨床治験に対する米国国立薬物濫用研究所の資金供与決定およびフェーズ2a臨床治験開始 • 今後の開発方針を発表	3月	• 通期決算説明会（東京）
• 石坂芳男氏の取締役就任 • エスター・ヴァン・デン・ブーム氏のCFO就任	4月	• SMBC日興証券佐賀支店個人投資家向け説明会（佐賀）
	5月	• 「賃貸住宅フェア」内株式投資フェア（仙台） • 「賃貸住宅フェア」内株式投資フェア（福岡）
• MN-001のPF（肺線維症）を適応とする試験結果を発表	6月	
	7月	• 日本経済新聞社主催個人投資家向け会社説明会（大阪）
• MN-001の進行型NASH（線維化を伴った非アルコール性脂肪性肝炎）を適応とする試験結果を発表 • MN-001およびMN-002の非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）治療を適応とする特許（米国）承認を発表 • MN-166のALS（筋萎縮性側索硬化症）を適応とするフェーズ2a臨床治験開始を発表 • MN-166のオピオイド依存症治療を適応とするフェーズ2a臨床治験の中間解析結果を発表	8月	• 中間決算説明会（東京）
• MN-166のオピオイド依存症治療を適応とする臨床治験に対する米国国立衛生研究所（NIH）の助成金追加供与決定 • MN-166の進行型多発性硬化症を適応とするフェーズ2b共同臨床治験の患者登録状況を発表 	9月	• SMBC日興証券岡山支店個人投資家向け説明会（岡山） • 日本貿易振興機構主催 バイオグローバルビジネスセミナー
	10月	• 「賃貸住宅フェア」内株式投資フェア（大阪） • 株主手帳主催「有望企業研究会」（東京）

MANAGEMENT TEAM
経営陣

執行役

岩城 裕一
代表取締役社長兼CEO(最高経営責任者)

ピッツバーグ大学教授、南カリフォルニア大学教授歴任、ジャフコ、日本政策投資銀行顧問

岡島 正恒
東京事務所代表、副社長

大和証券SMBC、住友キャピタル証券、住友銀行

松田 和子
CMO(最高医学責任者)

小児科医師、南カリフォルニア大学keckメディカルスクール助教授

ジェフリー・オブライアン
管理部門担当、副社長

UBS, DLJ/クレディ・スイス・ファースト・ボストン、野村、パンク・ズィーガルの株式アナリスト

エスター・ヴァン・デン・ブーム
CFO(最高財務責任者)

公認会計士
ユニバール・ライフ・リソース社マネージャー、アーンスト&ヤングLLPシニア・マネージャー

取締役

ジェフ・ヒマワン
取締役会長
エセックス・ウッドランズ・ヘルス・ベンチャーズ社
マネージング・ディレクター

繁田 寛昭
取締役
ザ・メディシンズ・カンパニー
取締役

中田 貢介
取締役
キッセイ薬品工業事業開発部

小林 温
取締役
セガサミーホールディングス顧問、参議院議員(経済産業大臣政務官、参議院自由民主党政策審議会副会長)

石坂 芳男
取締役
トヨタ自動車顧問

岩城 裕一
取締役
上記参照

委員会

監査委員会(構成員数:4名)
構成員
石坂 芳男(委員長)
ジェフ・ヒマワン
繁田 寛昭
小林 温

報酬委員会(構成員数:4名)
構成員
繁田 寛昭(委員長)
ジェフ・ヒマワン
小林 温
石坂 芳男

指名・企業統括委員会(構成員数:3名)
構成員
小林 温(委員長)
繁田 寛昭
石坂 芳男

FINANCIAL HIGHLIGHTS
財務ハイライト

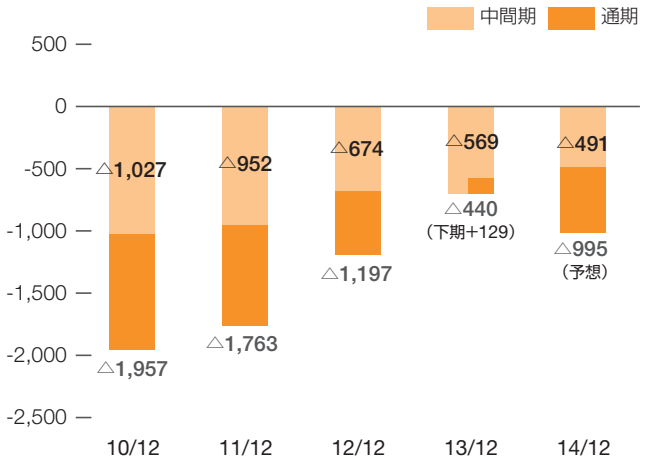
マイルストーン収入を計上した前期に比べ営業収益、利益は減少、営業損失、純損失ともに業績予想どおりに推移。

当上期の決算は、前期にジェンザイム社からのマイルストーン収入約6.6億円を計上したため、売上高（営業収益）は前期比約6.2億円の減少となりました。同様に、営業利益および純利益はそれぞれおよそ約5.8億円の減少となりました。いずれも2014年3月28日発表の業績予想とほぼ同水準です。また営業費用は、前下期の495百万円とほぼ同水準で着地しました。

今のところ通期業績予想どおりに推移しており、現時点での変更の予定はありません。

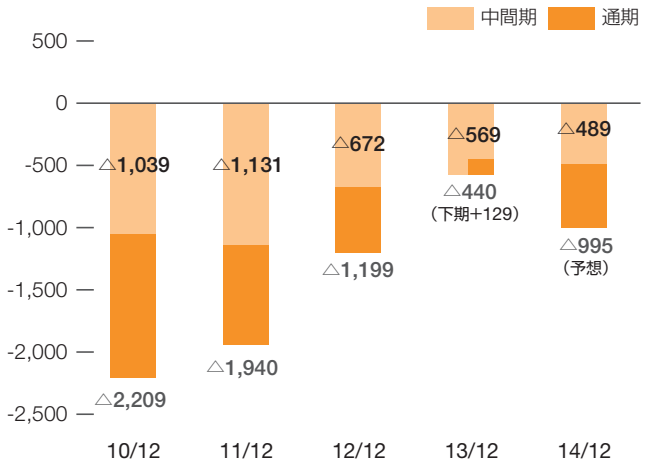
営業利益

（百万円）



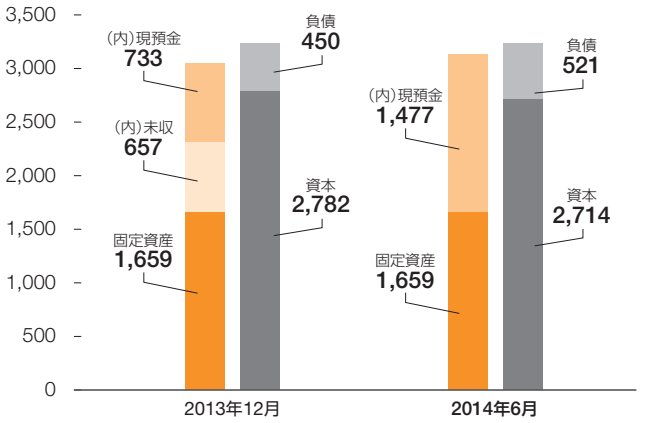
当期純利益

（百万円）



資産の内訳

（百万円/単位未満切捨て）



	2013年12月	2014年6月	増減
現金及び現金同等物（百万円）	733	**1,477**	+744
資本合計（百万円）	2,782	**2,714**	△68
1株当たり純資産（円）	123	**112**	△11
1株当たり現金及び現金同等物（円）	32	**61**	+29
	2013年12月30日時点	**2014年6月30日時点**	
JASDAQ市場時価総額（百万円）	4,994	**5,167**	+173

注）メディシノバは米国企業で実際の決算は米ドルベースで行われておりますが、便宜上、三菱東京UFJ銀行の2014年9月30日現在の対顧客電信直物相場から算出した仲値1ドル=109.45円にて円換算しております。

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS
財務諸表

貸借対照表

（百万円/単位未満切捨て）

科目	前期末（2013年12月）	当中間期（2014年6月）	増減額
資産の部			
流動資産	1,574	**1,576**	+2
固定資産	1,659	**1,659**	—
資産合計	3,223	**3,235**	+2
負債の部			
流動負債	50	**120**	+70
固定負債	400	**401**	+1
負債合計	450	**521**	+71
純資産の部			
株主資本	2,782	**2,714**	△68
資本金	2	**2**	—
資本剰余金	35,775	**36,196**	+421
累積欠損	△32,986	**△33,476**	△490
自己株式	—	—	—
その他の包括損失累計額合計	△8	**△8**	—
純資産合計	2,782	**2,714**	△68
負債及び純資産合計	3,233	**3,235**	+2

CHECK POINT
ジェンザイム社からのマイルストーンに関する未収債権が上半期中に現金回収されたため、現金及び現金同等物が約7.4億円増加。2015年6月30日までの運転資金を十分にカバーしています。

CHECK POINT
臨床治験薬の第2四半期末を挟んだ納品、支払により未払費用0.69億円を今期計上したことなどを主な要因に、負債合計が約0.7億円増加しました。有利子負債は引き続きゼロです。

CHECK POINT
累損欠損が約4.9億円増加する一方、新株購入契約を行ったことなどにより2014年上期中に165万株の普通株を発行し、払込剰余金が約4.2億円増加しました。

損益計算書

（百万円/単位未満切捨て）

科目	前下期（2013年7月～2013年12月）	当上期（2014年1月～2014年6月）	増減額
売上高（営業収益）	656	**—**	△656
営業費用	527	**491**	△36
営業利益	129	**△491**	△620
営業外収益	0	**2**	+2
税金等調整前当期純利益	129	**△489**	△618
普通株主に帰属する当期純利益	128	**△489**	△617
当期純利益	128	**△489**	△617

CHECK POINT
減少の要因は、前下期はジェンザイム社からのマイルストーン収入約6.6億円が計上されましたが、今上期はマイルストーン等が発生しなかったためです。

CHECK POINT
専門家報酬の削減と継続的なコスト抑制効果により、一般管理費が約0.2億円減少しました。

キャッシュ・フロー計算書

（百万円/単位未満切捨て）

科目	前下期（2013年7月～2013年12月）	当上期（2014年1月～2014年6月）
営業活動によるキャッシュ・フロー	△648	**376**
投資活動によるキャッシュ・フロー	—	**—**
財務活動によるキャッシュ・フロー	66	**367**
現金及び現金同等物の増減	△582	**744**
現金及び現金同等物の期首残高	1,315	**733**
現金及び現金同等物の期末残高	733	**1,477**

注）米国会計基準に準拠した財務諸表の科目を一部変更しております。
三菱東京UFJ銀行の2014年9月30日現在の対顧客電信直物相場から算出した仲値1ドル=109.45円にて円換算しております。

株主メモ

- **証券コード**：JASDAQスタンダード 4875
- **決算期**：12月31日
- **売買単位**：100株（JASDAQスタンダード）
- **株式事務取扱機関**：
  東京都千代田区丸の内1丁目4番1号　三井住友信託銀行株式会社
- **事務取扱場所**：
  東京都杉並区和泉2丁目8番4号　三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- **株主名簿管理人**：
  American Stock Transfer & Trust Company
  （アメリカン・ストック・トランスファー・アンド・トラスト・カンパニー）
  6201 15th Ave. Brooklyn, NY 11219, USA

HOMEPAGE GUIDE
ホームページの歩き方

見やすい、わかりやすいコンテンツづくりを目指して見直しを図っています。

▶▶▶www.medicinova.jp

株主通信の該当コンテンツにすぐにアクセスできるようにしました。

私たちの事業、臨床開発活動に関するさまざまなご質問にお答えします。

決算説明会等のIR活動を速やかに動画でアップデートします。

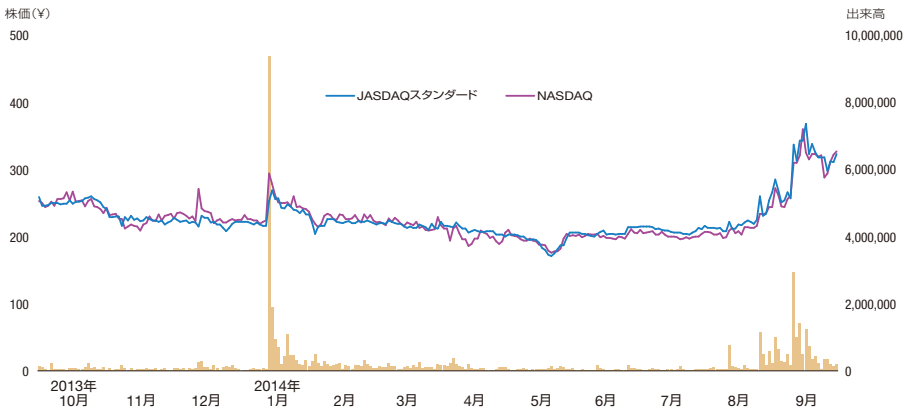
STOCK INFORMATION
株式の状況

発行可能株式総数	103,000,000株 (2014年9月30日現在)
発行済普通株式の総数	24,161,419株 (2014年9月30日現在)
純資産	24億80百万円 (2014年6月30日現在)
株主数	7,759名 (2014年4月18日現在)

JASDAQ証券コード	4875
NASDAQティッカー	MNOV

[大株主] (2014年4月18日現在)

株 主 名	所有株式数(株)	発行済株式数に対する所有株式数の割合(%)
里見 治	1,467,000	6.08
エセックス・ウッドランド・ヘルス・ベンチャーズ・ファンド VI・エルピー	1,170,370	4.85
チャールズ・シュワブ・アンド・カンパニー・インク	817,930	3.39
キッセイ薬品工業株式会社	800,000	3.31
ナショナル・フィナンシャル・サービス	793,751	3.29



MEDICINOVA

メディシノバ 東京事務所
〒105-0003 東京都港区西新橋1-11-5 新橋中央ビル5F
TEL:03-3519-5010 FAX:03-3593-2721
www.medicinova.jp